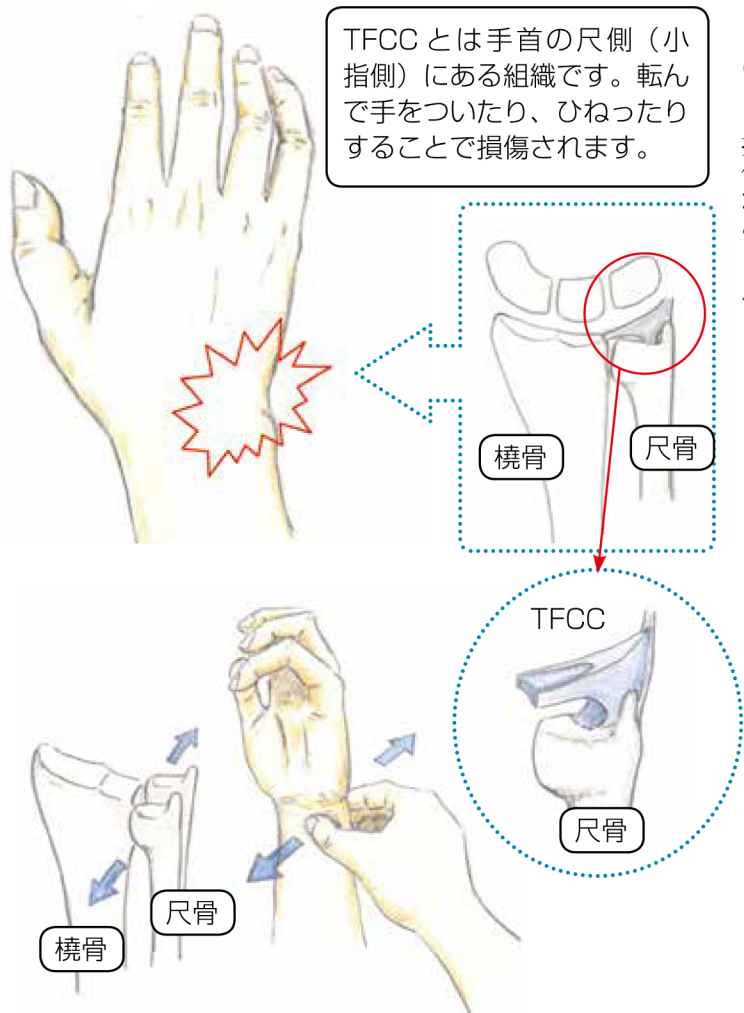


手外科領域の疾患

TFCC（三角線維軟骨複合体）損傷

整形外科部長兼手術部長 中村 恒一

今回取り上げるTFCC損傷とは、手首の小指側（尺側といいますが）の痛みを起こす疾患です。ドアノブを握ったとき、ラケット動作、重いものを持ち上げる時などに同部の痛みを生じる場合この疾患が疑われます。TFCCとは三角線維軟骨複合体の英語の略で、手首の尺側に存在する軟部組織です。怪我による損傷、加齢による損傷があります。



TFCCとは手首の尺側（小指側）にある組織です。転んで手をついたり、ひねったりすることで損傷されます。



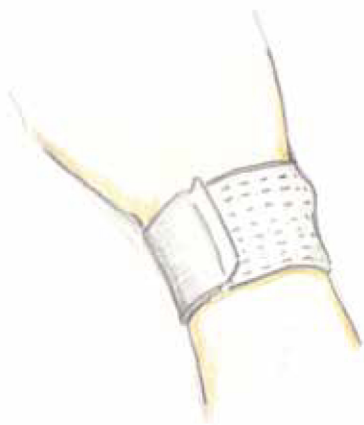
手首を小指側に曲げ（尺屈）、回旋させると尺側の痛みが生じます。

尺骨の掌側、背側方向へのぐらつき（不安定性）を生じることもあります。

当院での装具療法

おわりに

1年間連載してきました手外科領域の疾患の紹介は今回で最後となります。連載で取り上げた疾患は手外科領域の主なものですが、それ以外にも多くの手外科疾患が存在します。少しでも困ったこと、不都合なことがありましたらお気軽に整形外科までお越しください。



手の形に合わせた装具を作業療法士が作成します。

手首を尺屈（小指側曲げる）して回旋させると痛みが誘発されます。またTFCCは尺骨の安定性にも寄与しているため、損傷があると尺骨の掌側、背側方向へのぐらつき（不安定性）を生じることもあります。MRI検査、場合によっては造影剤による検査で診断することが可能です。治療は、まずは保存的治療が行われます。TFCC部に注射をしたり、手の形に合わせた装具を作成し、それを装着することで症状が軽減されます。それでも症状がつづくような場合には内視鏡によるTFCC修復術や尺骨を短くする手術などがあります。